

論文内容要旨

<div>しめい氏名</div>	<div>はせがわ こうじ</div> <div>長谷川 浩司</div>
<div>学位論文題名</div>	<div>Control status of atherosclerotic cardiovascular risk factors among Japanese high-risk subjects: Analyses of a Japanese Health Check Database from 2008 through 2011</div> <div>本邦における動脈硬化性疾患高リスク者の管理状況について：2008年から2011年の健診データによる検討</div>
<div>【目的】</div> <div>我が国の脳血管障害または冠動脈疾患の既往を有する者、あるいは糖尿病加療中である患者の各動脈硬化危険因子の管理状況を調べる。</div> <div>【方法】</div> <div>対象は収集した2008年から2011年の4年間の特定健診データのうち、4年間のデータがすべて揃っている都道府県の者（各年度28～30万人）。質問票の回答より前述の疾患に該当する者を選び出し、各々の疾患の割合、各疾患における動脈硬化危険因子（血圧、脂質、血糖値）の管理目標値達成率（以下：達成率）、およびそれらの年次推移を性別に検討した。管理目標値は、JSH 2014、JDS 2013、JAS 2012の指針に基づいた。達成率については、他の因子（年齢等の各種動脈硬化危険因子、および投薬）で補正した検討も行った。</div> <div>【結果】</div> <div>脳血管障害：既往のある者は男性約5%、女性約3%で、その割合は経年的に有意に減少した（$p<0.001$）。血圧達成率は60-75%、LDL-C達成率は約50-60%であったが、血圧・LDL-Cともにその達成率は経年的に増加し（$p<0.001$）、他の因子で補正しても有意であった。HDL-Cおよび中性脂肪（TG）達成率はそれぞれ約87-95%、70-80%であり、HbA1c達成率は90%以上であった。他因子で補正後のHDL-C、TG、HbA1c達成率の経年的変化は、TGにおいてのみ経年的な改善（$p<0.05$）を認めた。</div> <div>冠動脈疾患：既往のある者は男性約7%、女性4-5%程度で、その割合は経年的に有意に減少した（$p<0.001$）。血圧達成率は65-75%、LDL-C達成率は約25-35%であったが、血圧・LDL-Cともにその達成率は経年的に増加し（$p<0.001$）、他の因子で補正しても有意であった。HDL-CおよびTG達成率はそれぞれ約90%、70-80%であり、HbA1c達成率は90%以上であった。HDL-C、TG、HbA1c達成率の他因子で補正後の経年的変化は、女性のHbA1cにおいてのみ改善（$p<0.05$）を認めた。</div>	

糖尿病：対象者は男性約 8%、女性約 4.5%で、その割合は経年的に有意に増加した ($p < 0.001$)。血圧達成率は 35%程度、LDL-C 達成率は約 50-60%であったが、血圧・LDL-C とともにその達成率は経年的に増加し($p < 0.001$)、他の因子で補正しても有意であった。HDL-C 達成率は約 90%、TG 達成率は 70%程度であり、HbA1c 達成率は 50%台であった。HDL-C、TG、HbA1c の達成率に関しては、男性の TG において他因子で補正した後に経年的な改善($p < 0.01$)を認めた。

【結論】

脳血管障害既往患者の血圧と LDL-C の達成率、冠動脈疾患既往患者の LDL-C の達成率、糖尿病患者の血圧と LDL-C の達成率は、他項目の達成率より低いものの、その達成率は近年、年毎に改善してきていることが示唆された。

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

平成 28 年 9 月 15 日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

はせがわ こうじ

氏 名 長谷川 浩司

所 属 医学部糖尿病・代謝・腎臓内科学講座

学位論文題名

Control status of atherosclerotic cardiovascular risk factors among Japanese high-risk subject: Analyses of a Japanese Health Check Database from 2008 through 2011

心血管疾患は我が国の死亡順位の上位であり、健康寿命の延伸からもその対策が重要である。心血管疾患の危険因子である高血圧、糖尿病、脂質異常については、各学会がコントロール目標とする値を定めており、それをもとに治療は行われているが、そのコントロール率を心血管疾患のハイリスク者で経年的に確認した報告は我が国ではほとんどない。長谷川浩司氏は、我が国の 2008 年以降の特定健診のデータをもとに心血管疾患ハイリスク者の高血圧、糖尿病、脂質異常のコントロール率の経年変化についての研究を試みた。全国 16 の都道府県の特定健診受診者約 28 万人の経年データ（2008 年～2011 年）を用いて、脳血管疾患・冠動脈疾患の既往、及び糖尿病治療中の者を抽出し、これらの者において、各学会が定めた高血圧、糖尿病、脂質異常のコントロールの目標に到達できている者の割合を経年的に比較した。その結果、血圧については脳血管疾患・冠動脈疾患既往者ではおよそ 70% が目標に達していたが、糖尿病患者では 35% 程度にとどまった。HDL コレステロール、トリグリセライドについては、どの疾患においてもそれぞれ約 90%、約 75% 程度が目標値に到達できていた。一方、LDL コレステロールについてはどの疾患においてもコントロール率はあまりよくなく、HbA1c は糖尿病患者において目標達成していたのはどの年代も 60% 未満であった。また、コントロール率を経年的に観察すると、血圧についてはどの疾患においても経年的にコントロール率が良くなって

いたが、HDL コレステロール、LDL コレステロール、トリグリセライド、HbA1c については疾患によって異なる傾向がみられた。

以上の結果、長谷川浩司氏は、大規模疫学研究により脳血管疾患既往、冠動脈疾患既往、及び糖尿病治療中の者において循環器疾患危険因子のコントロール率の経年変化が疾患および危険因子の種類によって異なることを明らかにした。本結果は今後循環器疾患ハイリスク者における発症・再発予防のための対策に貢献できるものであり公衆衛生学的に意味が大きいと考える。また、平成 28 年 8 月 3 日に開催された学位審査会において、研究内容が明確に示された。審査会においては、対象者が特定健診受診者に偏っていることや地域差の有無の検討の必要性等の課題が挙げられたが、こうした Limitation を考慮しても尚本研究の新規性、重要性は十分にあることから、本論文は本学医学博士授与に値するものと判断できる。

論文審査委員

主査 大平 哲也
副査 横山 斉
副査 緑川 早苗